

平成 29 年度経済学部学生チャレンジプロジェクト事業成果報告書

Bonsai Girls ～女子目線で高松盆栽を発信！～

代表 川本 和季 (経営システム学科 3 年生)

(1) 目的と概要

現在、海外では「cool Japan」が流行っており、その影響で盆栽も「Bonsai」の表記で海外から注目されつつある。香川県高松市は松盆栽の全国シェアの 8 割を占めており、海外からわざわざ盆栽を買いに来るお客さんも多い。

しかし、高松盆栽の認知度は低く、日本の伝統文化であるにもかかわらず、若い世代には親しみが無い、後継者不足という問題を抱えているのが現状である。そういった問題の背景には、一般的に盆栽に対して抱かれる「男性」、「高齢者」、「高価」のような、親しみにくいイメージの影響があると考えた。

そこで、そんなイメージとは真逆の女子大生の立場から、盆栽の別の視点を発信することでより多くの人に親んでもらい、高松盆栽認知度向上を目指す。

(2) 実施期間

平成 29 年 6 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで

(3) 成果の内容

1) 具体的な成果

【盆栽づくりワークショップ】

今年度も様々な場所でのイベントに参加することが出来た。以下が今年度参加したイベント一覧である。

4 月 2 日	多肥さくらまつり	7 月 16 日	与島 PA
4 月 16 日	UNOICHI	8 月 6 日	ものづくり教室 (瀬居)
4 月 29 日	鬼無・国分寺グリーンフェア	9 月 2 日	四国ガスショールーム
4 月 30 日	鬼無・国分寺グリーンフェア	9 月 3 日	四国ガスショールーム
4 月 30 日	国分寺ファミリーマルシェ	9 月 8 日	老人健康施設
5 月 14 日	坂出第四土曜デー	10 月 7 日	与島 PA
5 月 27 日	カバヤ	10 月 21 日	丸亀町グリーン
6 月 24 日	坂出第四土曜デー	10 月 25 日	瓦町 FLAG
6 月 25 日	小豆島	10 月 28 日	坂出第四土曜デー

10月28日	直島環境フェスタ
10月29日	仏生山
11月4日	大学祭
11月12日	スタンドアップマーケット
11月15日	瓦町 FLAG
11月23日	小豆島
11月25日	四国ガス展

11月26日	四国ガス展
11月29日	なえどこ盆栽教室
12月6日	瓦町 FLAG
1月17日	瓦町 FLAG
1月27日	坂出第四土曜デー
2月14日	瓦町 FLAG
2月24日	坂出第四土曜デー

イベントを通して、様々な方と関わることでコミュニケーション能力が身に付いた。また、イベントの主催者の方との連絡など、社会性も学んだと考える。

今年度はなえどことコラボして、盆栽教室を行うことが出来た。ここでは多くの大学生に盆栽に関わってもらうことが出来た。

新たな取り組みとして、Bonsai Girls 主催のイベントを始めた。

単発のイベントとして、丸亀町グリーンでお野菜食堂 SOHSHO とコラボしてイベントを行った。ここでは女子高生にも盆栽づくりに挑戦してもらい、若い方にも PR 出来たと考える。



▲丸亀町グリーンでのイベントの様子

長期的なイベントとして、瓦町 FLAG で女性限定の盆栽教室を行った。当初は年 3 回の開催を予定していたが、10月から2月の間、毎月（計5回）行った。

初めは 5 人ほどしか来ず、自分たちで主催するイベントにおいて外部との関わり方や、集客や広報活動の難しさを知った。これを活かし、チラシ配りや SNS を使った広報、お店にチラシを置いてもらうなど、メンバーが主体的に集客に取り組んだ。その結果、1・2 月は定員 10 人の枠を超えての応募が殺到し、大盛況に終わった。長期的に行うことで、回数を重ねるごとにリピーターも増えた。評判も良かったため、来年度も継続して行っていきたい。



▲10~12月のチラシ

▲盆栽教室の集合写真

【ポストカード作り】

これは、今年度から始めた活動の一つである。鬼無・国分寺にある盆栽園を多くの方にも知らせてもらう事に加え、私たちが盆栽園の方と積極的に関わるために行っている。完成したポストカードはイベントで配ったり、駅などに置いたり、盆栽園の方に渡そうと考えている。イベントで配る理由は、ワークショップに参加して下さるお客さんは盆栽に興味は持っているが、盆栽園に行った事はなく、そもそも盆栽園を知らないという声を多く聞いたからである。

ポストカードを作るにあたって、交渉などの都合で今年度に全ての盆栽園を回る事が出来なかった。そのため、来年度も継続して全盆栽園のポストカード完成を目指して取り組む予定だ。

【広報活動】

今年度は Facebook、Twitter での広報活動はもちろん、Instagram での広報に力を入れた。結果として、フォロワーは 6,000 を超え、海外からのコメントもたくさんいただけるようになった。Instagram で私たちの活動を見て、イベントなどの参加に繋がった例もある。これからも SNS を効果的に使った広報活動を頑張りたい。

新たな取り組みとして、Youtube を使った広報を始めた。高松盆栽の紹介や、盆栽園巡り、イベントの様子などをあげる予定だ。今年度は始めたばかりで、編集などの技術面での躓きが多く、一筋縄ではいかなかった。来年度からはそういう面を克服し、多くの動画を提供したい。

2) 大学や地域社会の活性化，学業の振興などに対してもたらした影響あるいは効果

活動を通して、お金の事や組織の在り方について悩む機会が増えた。そのため、マーケティング論、経営論、組織論など、授業に対し積極的に取り組むようになった。それを実際に活動で活かす場がある為、身をもって授業内容を体験することができた。

地域社会に対しては、高松盆栽の普及活動を通して、鬼無・国分寺の活性化に貢献できたと考える。最近は鬼無で行われるイベントの話し合いに私たちも参加するなど、地域の方が私たちを必要としてくれていると感じる。私たちも授業での学びが話し合いで生きると感じ、自身の成長に繋がっていると実感するため、Win-win な関係作りが出来ていると考える。

(4) プロジェクトから学んだこと

- ・報告・連絡・相談の重要性。組織の人数が増えていくにあたって、組織の上位から下位へしっかりと情報を伝えることが大切で、無関心な人を増やさないように組織のマネジメントを行うことや、メンバーのモチベーションを保つ工夫をすることも重要だと感じた。
- ・イベントを通して地域の方が何か BGP と関わりたいというお話をいただくことも多く、活動の幅を広げるためにも地域の方との繋がり方を大切にしていけばいいと思った。
- ・イベントを行う際に、私たち学生の自己満足にならないように相手や自分にとってもメリットや目的を考え、責任を持って行動し、信頼を築いていかなければならないということ。
- ・お客さんから、ワークショップに対してお金をいただいているからには、きちんと価値にみあった提供しなければならないという責任感を学んだ。
- ・勢いだけでは物事はうまくいかないということ。
- ・既存の活動についての課題抽出や改善を繰り返しつつ、新しい企画を考え、実行し、定着させていくことの重要性や難しさを学んだ。また、活動を継続するためには、地域の人等の周囲の協力が必要であり、地域交流の重大さを改めて感じる事ができた。

・メンバー間の情報共有だけでなく、イベントに関わる方への事前の連絡、お客さんへの広報活動の重大さを学んだ。

・プロジェクト全体での目標にあったスケジュール管理をすることや、一部の人に負担が集中しないように組織内での仕事を分担することの大切さを感じた。

(5) 実施メンバー

名前	学部	学年
入江美聖	経済	4
杉山美栄	経済	4
宮谷亜香里	経済	4
前田遥香	経済	4
上林窓桜子	経済	3
川本和季	経済	3 (代表)
静輝美子	経済	3
竹本しおり	経済	3
高森日奈子	経済	3
角野真優奈	法	3
杉田茉央	法	3
井上七海	経済	2
伊藤里歩	経済	2

名前	学部	学年
佐野実怜	経済	2
十亀稔理	経済	2
尾山絢菜	経済	2
首藤沙希	経済	2
細川未奈	経済	2
神野玲菜	経済	1
田辺早紀	経済	1
平岡真矢	経済	1
野村歩未	経済	1
林美玖	経済	1
横島友唯子	経済	1
上村汀	法	1
清遠晏未	農	1